

学校事務再編のための研究指定校の取組について

義務教育課人事班

現状

- ◇ 教員の子供と向き合う時間の拡充に向け、「未来の学校夢プロジェクト」や「夢コ－ディネータ」など、様々な働き方改革を試みている。
- ◇ 学校事務職員においては、教員の子供と向き合う時間の拡充に向け、共同学校事務室を全市町で展開している。
- ◇ SSSの全校配置により、教員でなくてもできる業務を移管している。

課題

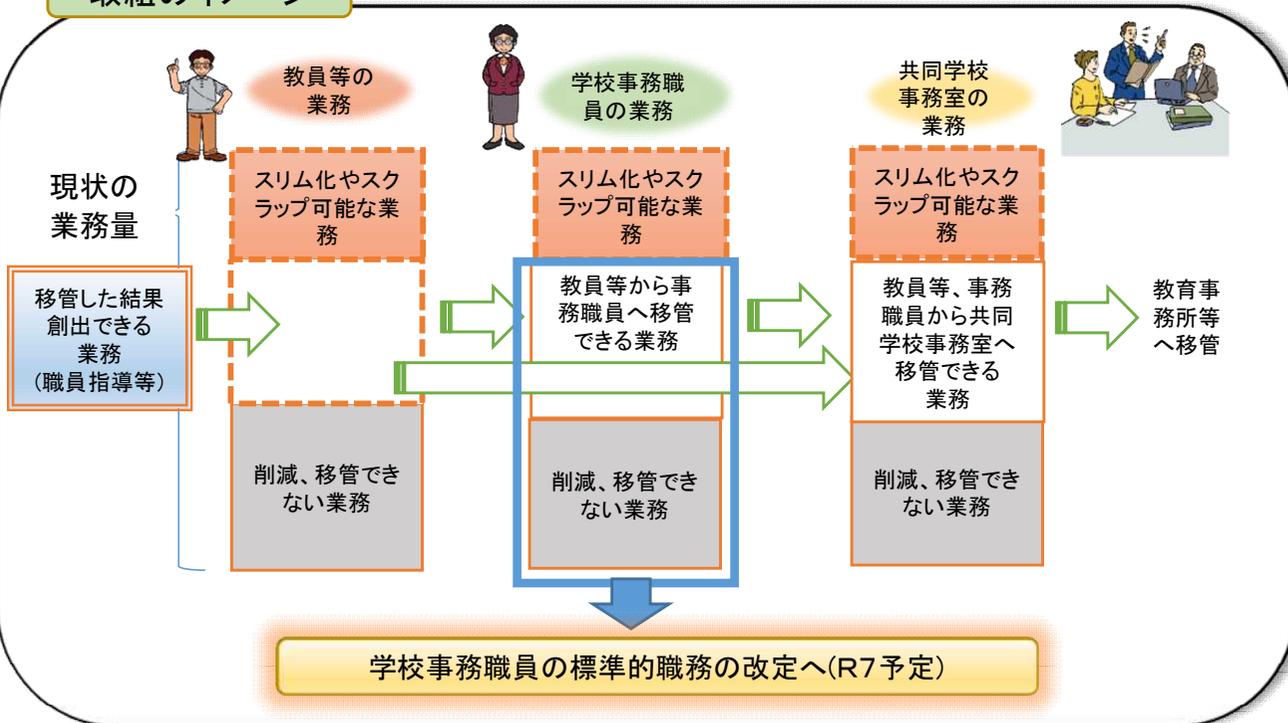
- ◆ 左記の取組が教員の時間外勤務の縮減にまで結びついておらず、**特に教頭や教務主任の多忙ぶり**が顕著である。
- ◆ 共同学校事務室では、事務の適正化や効率化や若手育成などに効果を発揮しているものの、教員等から学校事務職員への業務移管の面はあまり進んでいない。
- ◆ 原因として、**教員の職務へのこだわり**や、**学校事務職員の経営参画意識に個人差がある**ことが考えられる。

教員の子供と向き合う時間の拡充及び学校事務再編のための研究指定校の取組（3年計画）

- ◇ 学校事務のさらなる業務改善（スリム化やスクラップ等）を図りつつ、教員等の業務を学校事務職員へ可能な限り移管し、**教職員の働き方改革を進めるとともに、学校事務職員が学校経営の重要なスタッフとして校長の学校経営を補佐できる体制づくり**（学校事務職員の標準的職務の改定）を目指していきたい。
- ◇ 3年程度かけて**研究指定校（静東1、静西1）で試行**し、少しずつ地区、全県へ広げていく。
- ◇ 特に時間外勤務が多い**教頭や教務主任の業務移管**を模索（例 学校だより作成、週計画、学校評価の集計・分析等）



取組のイメージ



取組のスケジュール(予定)

年度	主な取組	会議等
R3	○研究市町、研究指定校(2校)選定	説明会(3月)
R4	研究校実践1年目(2校) ○実践、成果や課題報告 ○アンケート実施	研究校連絡会(年3回)
R5	研究校実践2年目(2校+協力校) ○実践、成果や課題報告 ○アンケート実施	研究校連絡会(年3回)
R6	研究実践校3年目(2校+協力校) 学校事務職員の標準的職務の発出(3月)	研究校連絡会(年3回)
R7	全県において段階的に実施	

※研究校連絡会での協議内容を踏まえ、学校事務参事連絡会等で標準的職務を随時協議